

# 経済白書

総漁獲金額 115億4百万円。  
史上初めて100億円を突破！

斜里町の経済を支える3本の矢、  
基幹産業の「農業」「漁業」「観光」。  
平成18年の生産額見込みがまとまりました。

畑作全体やや減少のなか、  
青果物に伸び。

平成18年は、3月から4月  
にかけ、積雪量が多く、融雪  
も遅れたことから、植え付  
け・播種作業は、平年に比べ、  
1週間程度遅く終わりました。  
さらに、5月下旬から6  
月上旬は、低温の日が続いた  
ため、農作物の生育遅れが心  
配されました。その後、7月  
中旬から8月にかけては気温  
が高く、特に8月は最高気温  
が30度を超える日が9日間あ  
り、降水量も平年より少なく  
推移したため、「秋小麦」、  
「澱原用馬鈴薯」については、

## 平成18年度 農畜産物生産額見込み

平成18年12月6日現在

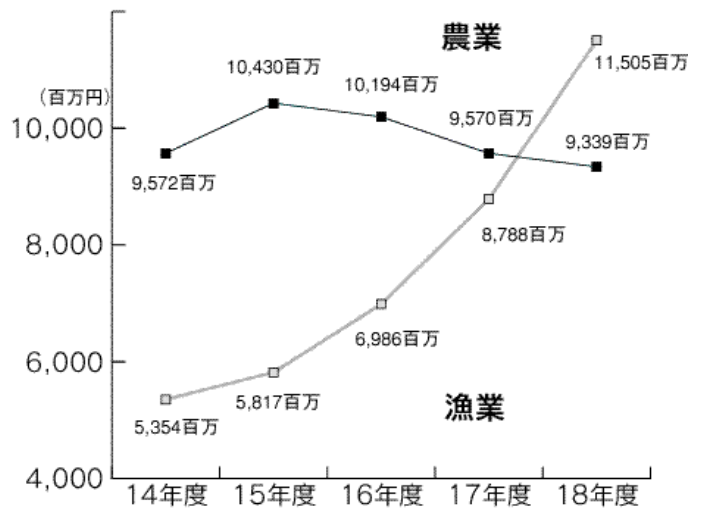
区 分	平成18年度					17年度との比較		10a当り収量の比較			
	(ha) 面積	(kg/ha) 単収	(t) 生産量	(円/t) 単価	(千円) 生産額	(千円) 17年度生産額	(%) 前年比	18年	17年	平年	
麦類	秋小麦	2,439.4	5,913	14,425	153,350	2,212,073	2,314,273	95.6	9.86俵	10.44俵	8.11俵
	春小麦	358.7	4,480	1,607	163,549	262,823	149,255	176.1	7.47俵	5.74俵	6.13俵
	小計	2,798.1		16,032		2,474,896	2,463,528	100.5	秋小麦 1等96.5% (94.5%) 2等 - % ( - ) 規格外 3.5% (5.5%)		
	種子	64.0		340		67,877	66,702	101.8	春小麦 1等90.6% (75.0%) 2等 - % (10.3%) 規格外 9.4% (14.7%)		
麦類計	2,862.1		16,372		2,542,773	2,530,230	100.5				
豆類	122.1		213		58,342	78,171	74.6				
馬鈴薯	種子	117.2	30,742	3,603	55,114	198,575	120,633	164.6	51.23俵	47.70俵	
	澱原	2,288.8	43,797	100,243	15,782	1,581,990	1,902,797	83.1	73.00俵	77.00俵	68俵
	馬鈴薯計	2,406.0		103,846		1,780,565	2,023,430	88.0	ライマン18.22%	ライマン18.30%	ライマン18.3%
てん菜	2,815.8		174,832		2,787,263	2,905,827	95.9	6.21 t	6.16 t	5.9 t	
青果物	人参	267.2	30,730	8,211	54,798	449,946	277,987	161.9	3,073 kg	4,465 kg	3,088 kg
	玉ねぎ	55.8	62,043	3,462	45,370	157,071	172,236	91.2	6,204 kg	6,437 kg	4,945 kg
	大根	46.5				77,766	80,000	97.2	てん菜の含糖率見込み ・18年 16.10 % ・17年 17.00 % ・平年 17.16 %		
	アスパラ	2.1	2,381	5	652	3,259	2,402	135.7			
	食用イモ	42.8	30,724	1,315	50,707	66,680	68,385	97.5			
	加工イモ	179.0	27,425	4,909	34,838	170,971	207,317	82.5			
	かぼちゃ	20.6	10,922	225	44,658	10,048	9,500	105.8			
	わさび	62.9	13,672	860	103,954	89,401	87,471	102.2			
	長芋	4.7	25,532	120	77,283	9,274	10,000	92.7			
	そば	64.1	905	58	198,931	11,538	16,736	68.9			
	白菜	10.3	80,583	830	56,482	46,880	50,000	93.8			
その他	55.7				53,153	40,019	71.5				
青果物計	811.7				1,145,987	1,022,053	112.1				
牧草・デントコーン	656.5										
緑肥	152.7										
畑作物計	9,826.9				8,314,930	8,559,711	97.1				
畜産	牛乳			10,662	66,509	709,115	748,764	94.7			
	肉牛			757		144,574	91,138	158.6			
	乳牛個体			133	285,579	37,982	36,190	105.0			
	豚			3,073		122,519	124,101	98.7			
	鶏卵			14	700,000	9,800	9,800	100.0			
畜産計					1,023,990	1,009,993					
合計	9,826.9				9,338,920	9,569,704	97.6				

(注)ライマン=ライマン価：でん粉含有量の割合

これらの影響を受け、それぞれ、減収につながりました。

畑作物それぞれの生産状況は、平成17年に比較して、「秋小麦」については、反収で0.5俵減収の減収でしたが、品質が良く、全量1等となり22億1千2百万円の見込みです。「春小麦」は、17年に比較して、反収で約1.7俵増の2億6千2百万円の見込みとなっており、反収、生産額ともに増えています。「馬鈴薯」については、17年に比較し反収は「澁原」で約4俵減し、ライマン俵についても17年を若干下回る18.2%となっており、生産額は「澁原・種子」合わせて12%減の、17億8千万円の見込みです。「甜菜」については、17年と比較し、反収は若干増えているものの、含糖率については、0.9%減となっており、生産額は4.1%減の、27億8千7百万円となる見込みです。「青果物」は、「人参」が17年比で約62%増の、4億4千9百万円、「玉ネギ」は、8.8%減の1億5千7百万円になる見込みです。人参が大幅に増えた要因としては、生産量は17年を下回りましたが、単価が大幅に上がっていることにより、青果物全体では17年に比

過去5年間の農業生産額・漁獲高の推移



較して、12%増の11億4千5百万円となる見込みです。畑作全体としては、17年に比較して、2.9%減の83億1千4百万円となる見込みです。畜産物の総生産額は、牛乳と肉牛、乳用牛、豚などの個体販売を含め、17年より1.4%増の、10億2千4百万円となる見込みです。以上によ

平成18年度 漁獲状況

平成18年11月30日現在

区分	18年度			17年度			前年対比 (%)		
	数量 (t)	平均単価 (円)	金額 (千円)	数量 (t)	平均単価 (円)	金額 (千円)	数量	平均単価	金額
さけ	29,997.8	335	10,036,654	29,988.2	231	6,925,015	100.0	144.9	144.9
ます	2,084.6	230	480,452	4,960.8	179	890,458	42.0	128.4	54.0
鮭・鱒計	32,082.4		10,517,106	34,949.0		7,815,473	91.8		134.6
毛がに	56.2	905	50,916	55.0	1,354	74,475	102.3	66.9	68.4
たこ	177.9	622	110,663	84.4	627	52,922	210.9	99.2	209.1
ほたて	279.4	86	24,047	411.9	116	47,614	67.8	74.5	50.5
かれい	57.5	277	15,945	59.6	275	16,388	96.5	100.9	97.3
ほっけ	584.0	92	53,452	780.0	59	45,756	74.9	156.0	116.8
きちじ	120.6	2,380	286,914	123.7	2,187	270,443	97.5	108.8	106.1
たら	5.1	123	620	7.5	74	554	67.2	166.4	111.9
すけそ	17.5	25	434	31.5	26	828	55.5	94.5	52.4
うに	42.7	759	32,360	41.4	758	31,352	103.1	100.1	103.2
うに製品	1.7	12,150	20,291	1.6	12,280	20,139	101.8	98.9	100.8
つぶ	39.1	239	9,346	49.4	339	16,739	79.3	70.4	55.8
ほっき	123.8	421	52,104	138.6	406	56,269	89.3	103.7	92.6
稚貝	77.7	505	39,215	87.1	531	46,226	89.2	95.1	84.8
その他	2,221.6		291,264	2,746.6		292,662	80.9		99.5
小計	3,804.6		987,571	4,618.2		972,367	82.4		101.6
合計	35,887.0		11,504,677	39,567.3		8,787,840	90.7		130.9

史上最高！  
115億4千万円。

平成18年11月末現在で、総漁獲金額は、過去最高となった、17年の88億5千9百万円を大きく上回り、115億4百万円と史上初めて100億円を突破

しました。この内「さけ・ます」で、約105億円と全体の91%を占めており、17年対比では130%、約27億円の大増額で史上最高の漁獲金額となっています。これは、「さけ」の平均単価が、1キロ当たり平均335円と、17年に比べ

104円も高く、数量的にも2万9千165トンと史上2番目の豊漁であったことによるもので、市町村別水揚げ量も、4年連続日本一となつています。「ます」については、金額で17年対比51%の4億8千万円、数量で42%と大幅な減少となつており、その他漁種についても、多少の増減はありますが、今期の最終的な漁獲金額は116億円に迫る記録的な状況です。しかしながら、全道的に大きな被害をもたらし、10月上旬の低気圧では、定置網が流出するなど大きな被害を受けており、豊漁を手放して喜べない状況もあります。

総入込み数は減少でも、世界遺産効果は継続中。

平成18年1月から11月まで町内の入込み総数は、約163万人で、17年同期と比較すると4・5%減で、約7万7千人減少しており、宿泊実数は、約58万7千人で、17年比マイナス1・4%、約8千人の減少となつています。世界遺産登録後に、飛躍的に増加した17年と比較すると減少しており、遺産効果は1年だったと指摘している大手旅行代理店もありますが、登録前5年間の平均入込み総数と比較する

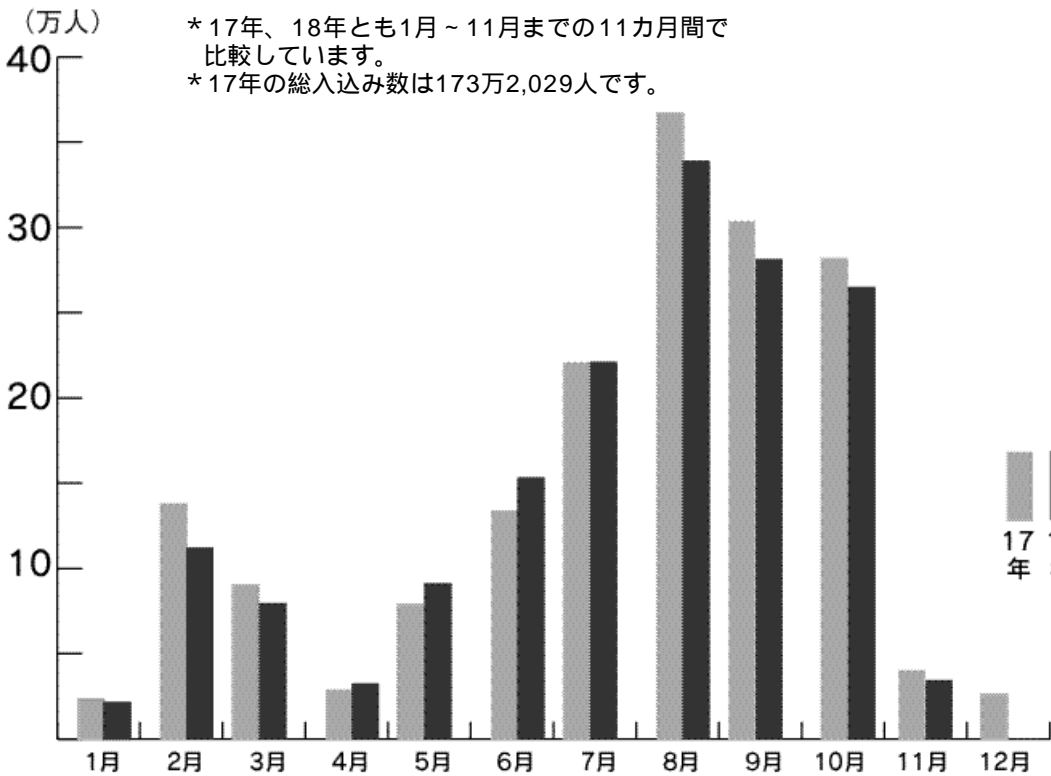
と、3・6%、約6万人増加しており、冬期間の流水観光の低迷にも関わらず、4月以降の出足的好調や宿泊数からも、遺産効果は継続していると考えております。特に17年まではあまり見られなかつた、欧米人の少人数による旅

行客の姿がよく見かけられるようになり、これも「世界遺産登録」の影響と考えられます。また、18年から、予約制にした観光船は、天候にも恵まれ、大型船及び小型船とも乗船客は増加しており、特に大型船は、26万人余りが乗船

し、過去最高となった17年もさらに、24%の大幅な伸びとなっております。

### 平成18年 観光客入込み数

平成 17年	道内 49万 2,331人	道外 121万3,718人	計	170万6,049人
	道内 45万 9,782人	道外 116万9,451人	計	162万9,233人



\* 17年、18年とも1月～11月までの11カ月間で比較しています。  
\* 17年の総入込み数は173万2,029人です。

## アンケート調査にご協力願います。

今回の津波避難の経験を踏まえ、今後の津波防災対策のあり方について考える基礎資料とするため、北海道開発局が群馬大学災害社会工学研究室などと連携し、斜里町民を対象に住民意識調査を行うこととなりました。

アンケート用紙は、返信用封筒と一緒に今月(1月)号の本紙に折込みしていますので、調査へのご協力をお願いいたします。

ご回答は、同封の返信用封筒(切手不用)にて

1月12日(金)までにご投函下さい。



# 冬道を快適に。



除雪作業は住民の皆さんのご協力が必要です。

町内の除雪は、国道は開発建設部が、道々は土木現業所が、町道は町がそれぞれ行っています。町では、皆さんの生活路線を一刻も早く確保するよう心がけていますが、大雪や吹雪などの後は、一時除雪が遅れる場合もありますので、ご理解をお願いします。

町道の除雪は10cmを超える降雪を目安に出動します。

通勤通学・定期バス路線、公共施設等に繋がる幹線道路から順に除雪を行い、迅速で効率的な作業に努めています。

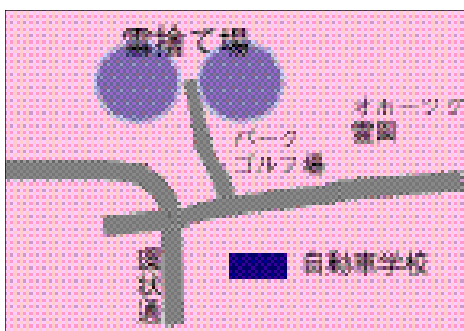
運搬排雪は、車道幅員が確保できず通行に支障をきたす場合、計画的に行います。

除雪に関する問合せ先

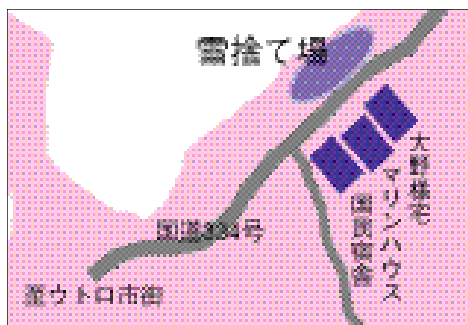
建設部建設課（内線226）

## 雪捨て場のご案内

雪捨て場は例年と同じ場所です。案内板を設置していますので、確認のうえ、排雪してください。雪以外のものは絶対に捨てないでください。



【斜里】



【ウトロ】

【建設部建設課】

除雪車が通過した後の玄関前の雪処理は、各家庭でお願いします。



道路に車や障害物があると、除雪車が入りません。路上駐車は絶対にやめましょう。また、道路敷地に物を置かないでください。雪の下になった農機具などが破損することがあります。

交通安全確保のため、敷地内の雪を道路や歩道にだすことは止めてください。

特に、重機を使用しての交差点や歩道への雪だしは、歩行者の事故につながり、大変危険です。



## 排水に捨てないで！

排水路に機械等で大量の雪を捨てている例が見られます。上流からの流れが阻害されるのはもちろん、フェンスの破損もあとを絶ちません。排水路への雪投げは絶対にしないようお願いします。（破損させた場合は修理代を負担していただきます）

